



# BUSINESS REPORT

株主の皆さまへ 第104期 第2四半期報告書

2013年12月1日から2014年5月31日まで

シリーズ ツダコマのマーケット

P9

第3回

スマートフォンと  
NC円テーブル

津田駒工業株式会社

# Dream Navigator ツダコマ

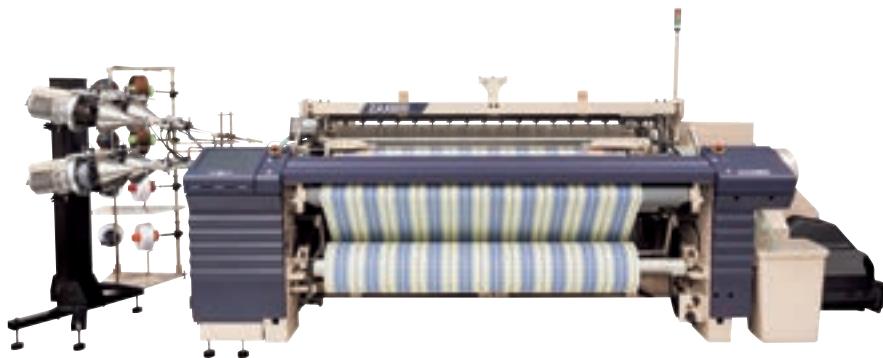
## お客さまの夢をかなえる企業を目指して

1909年の創業以来、ツダコマは常に技術革新の先頭に立ちたいと願い、技術力と企業力でお客さまの夢や未来像を、お客さまと一緒に実現してきました。

2014年3月、ツダコマは経済産業省のグローバルニッチトップ企業100選に選定いただきました。

### 繊維機械事業： エアジェットルーム・ウォータ ジェットルーム

水や空気の噴射力を使って緯糸を織り込んでいく織物機械がジェットルームです。最新の電子制御技術を駆使して、1分間に1,000本以上の緯糸を織り込みながら、現代の産業界に欠かせない省エネや省人化を両立させました。



世界最大の国際繊維機械展に出品した最新型エアジェットルームZAX9200

### 工作機械関連事業： NC円テーブル・マシンバイスなど

精密な部品加工に欠かせないNC円テーブルやマシンバイスを開発しています。

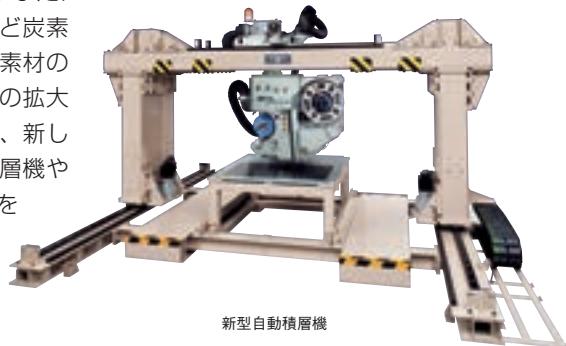
電子機器から航空機、宇宙産業まで、さまざまな産業分野でご利用いただける製品ラインアップと高速性、高精度、耐久性が最大の特長です。



直径4mの回転テーブルを持つ  
超大型NC円テーブル

### コンポジット機械事業： 炭素繊維複合素材の自動積層機

21世紀の素材革命といわれる炭素繊維複合素材の自動積層機を開発しています。すでに新型航空機の機体の部材生産に使われています。また、自動車など炭素繊維複合素材の利用分野の拡大に先立ち、新しい自動積層機や周辺装置を開発しています。



新型自動積層機



平成26年8月

取締役社長 **菱沼捷二**

第104期第2四半期報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

当第2四半期累計期間のわが国経済は、消費税増税の影響が一部で見られましたものの、総じて景気回復の傾向が続きました。また、私ども輸出企業において影響が大きい世界経済は、米国の好調や欧州市場の回復などが伝えられる一方、中国経済の成長鈍化や中東、ウクライナ問題など新たな課題も出てまいりました。

こうした中、当企業グループは、受注の確保と売上の拡大に注力してまいりました。しかし、繊維機械事業の中心市場であります中国で、織物市場の市況悪化や政府の金融規制の強化など、期初の予想に反しお客さまの設備投資の環境が急激に悪化いたしましたため、すでにお客さまと成約している案件の実行の遅れや受注に影響が表れました。工作機械関連事業では、主要な納入先であります工作機械業界の受注環境が改善する中、当社が取り扱うNC円テーブルなどの装置分野でも回復の兆しが見られましたが、本格的な回復には至りませんでした。

この結果、全体では受注高は16,430百万円（前年同期比29.0%減少）にとどまりました。売上高は18,943百万円（同比17.5%増加）となりました。損益面では、営業損失544百万円（前年同期 営業損失902百万円）、経常損失576百万円（同 経常損失959百万円）、四半期純損失566百万円（同 四半期純損失952百万円）と、前年同期からは改善いたしましたものの、誠に遺憾ながら損失計上となりました。

このため、中間配当金につきましては、引き続き見送りとさせていただきたいと存じます。

今後の見通しにつきましては、繊維機械事業では中国の金融規制の推移を注視していかなければなりません。徐々に緩和に向かい、お客さまの設備投資の環境は改善されると見込んでおり、販売活動を強化してまいります。

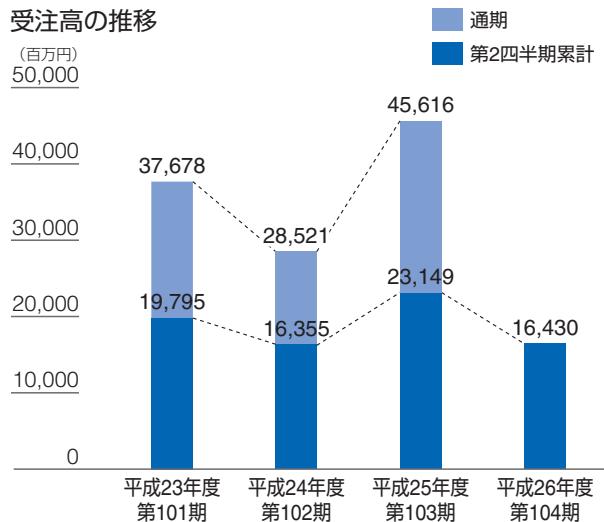
本年6月に上海で開催されました世界最大の国際繊維機械展には、新興国市場で要求の高い、省エネ・省人化機能と高生産性を備えた最新機種を出展し、お客さまから高い評価をいただきました。工作機械関連事業では、市況の本格的な回復が見込まれます。堅調に推移しております米国の基幹産業や航空機産業、ASEAN諸国の自動車産業、新型スマートフォンなどの電子機器産業など、受注・売上の拡大に向けて効率のよい販売活動を展開してまいります。また、社内的には効率化とコスト削減を徹底的に進めてまいります。

株主の皆さまには、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 業績の推移（連結）

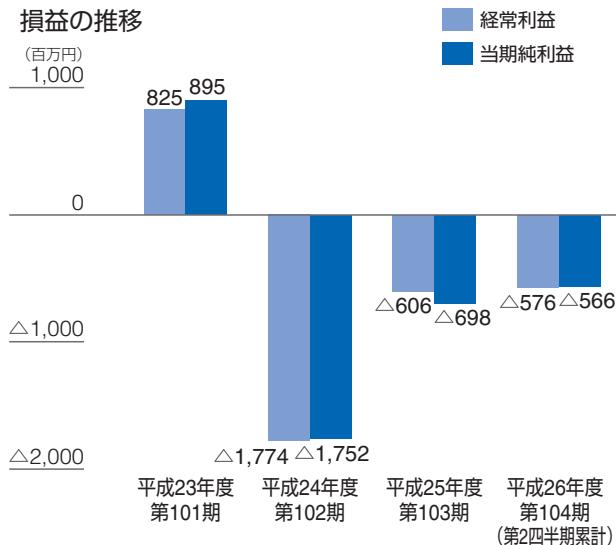
### 受注高の推移

(百万円)  
50,000



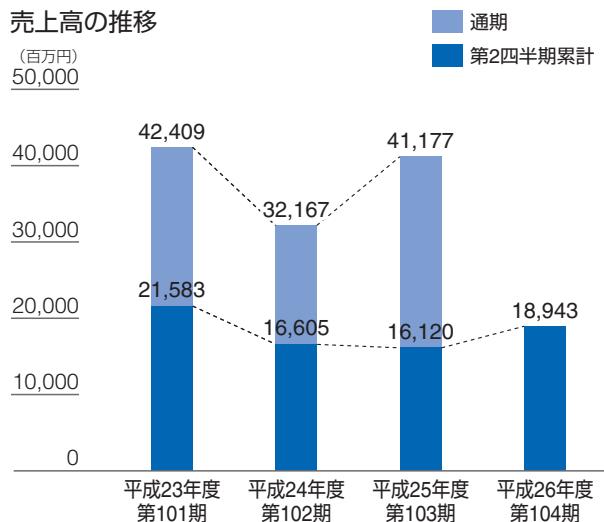
### 損益の推移

(百万円)  
1,000



### 売上高の推移

(百万円)  
50,000



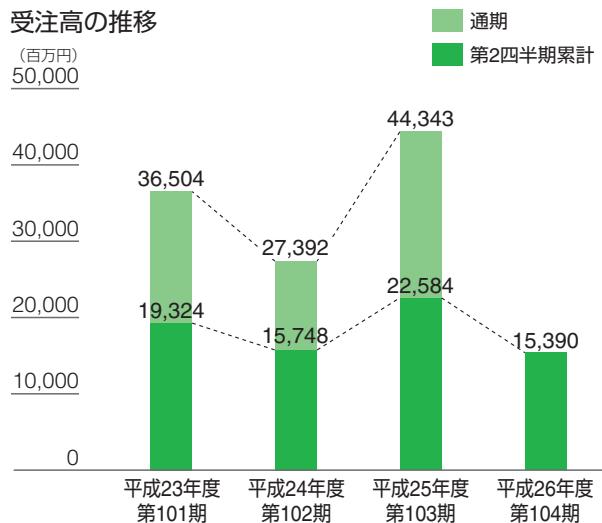
区分	平成23年度第101期	平成24年度第102期	平成25年度第103期	平成26年度第104期 (第2四半期累計)
売上高(百万円)	42,409	32,167	41,177	18,943
経常利益(百万円)	825	△1,774	△606	△576
当期純利益(百万円)	895	△1,752	△698	△566
1株当たり当期純利益(円)	14.01	△27.41	△10.93	△8.86
純資産(百万円)	17,917	16,014	16,006	15,348
総資産(百万円)	39,261	34,254	42,435	38,792

(注) △印は、損失を示しています。

## 業績の推移（単独）

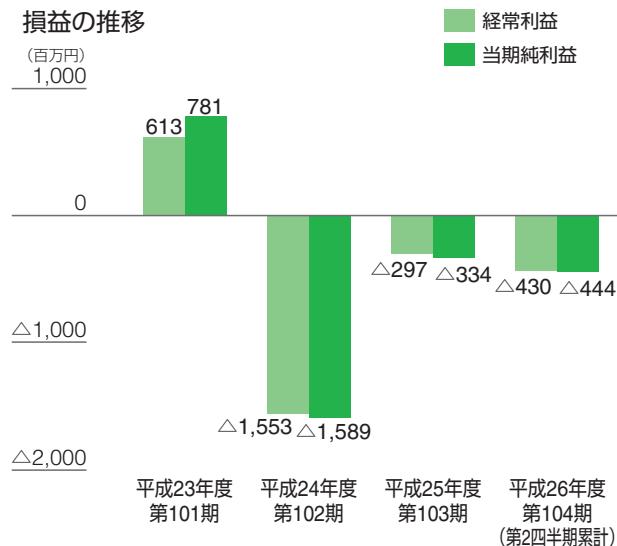
### 受注高の推移

(百万円)  
50,000



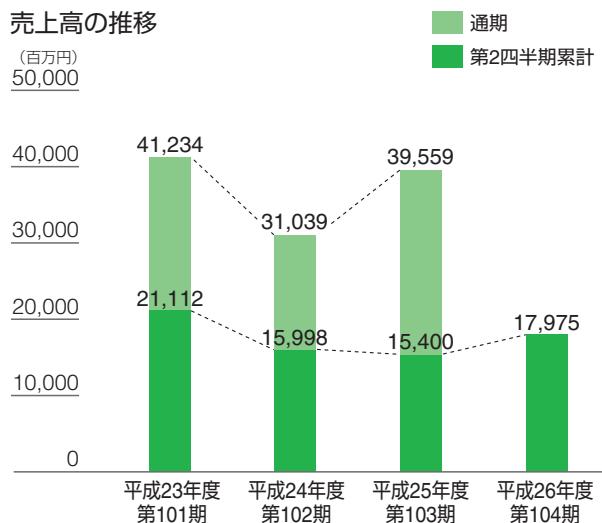
### 損益の推移

(百万円)  
1,000



### 売上高の推移

(百万円)  
50,000



区分	平成23年度第101期	平成24年度第102期	平成25年度第103期	平成26年度第104期 (第2四半期累計)
売上高(百万円)	41,234	31,039	39,559	17,975
経常利益(百万円)	613	△1,553	△297	△430
当期純利益(百万円)	781	△1,589	△334	△444
1株当たり当期純利益(円)	12.22	△24.87	△5.23	△6.96
純資産(百万円)	16,233	14,586	14,756	14,309
総資産(百万円)	37,348	32,268	40,520	36,633

(注) △印は、損失を示しています。

## 繊維機械事業



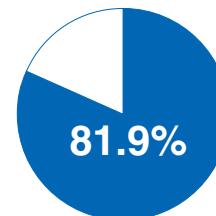
上海の国際展示会での当社小間

受注高 **12,747** 百万円 (前年同期比37.0%減少)

売上高 **15,511** 百万円 (前年同期比19.3%増加)

営業損失 **88** 百万円 (前年同期営業損失439百万円)

売上高構成比



中心市場であります中国市場で、金融規制の強化が進み、当初予定されておりましたお客さまへの銀行融資が実行されず、当事業の生産・売上に大きく影響いたしました。また、中国の繊維市場全般の状況が低調に推移いたしましたことから、中国市場の設備投資環境が急速に悪化いたしました。このため、中国市場の受注高は5,405百万円(前年同期比56.4%減少)となりました。また、売上高は前年同期比では改善いたしましたものの8,636百万円(同比20.5%増加)にとどまりました。

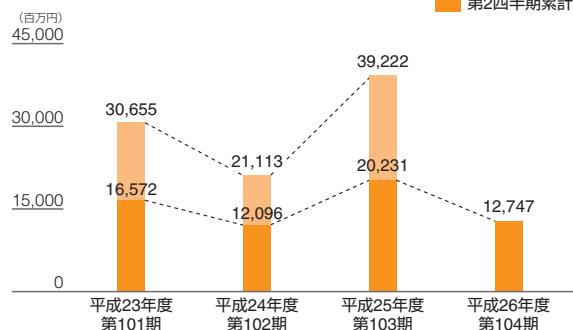
インド市場では、新政権による経済効果への期待から、引合いや成約は進みましたが、銀行融資の状況は引き続き厳しく、L/C(輸出信用状)の開設に時間がかかっております。

その他の市場では、老朽設備の更新による効率化を図る動きが見られました。インドネシアでは、人件費の高騰、電気代の高騰に対応するため省エネ・省人技術が進んだ新製品への更新がありました。欧州では、イタリア・スペインからの引合い、成約がありました。

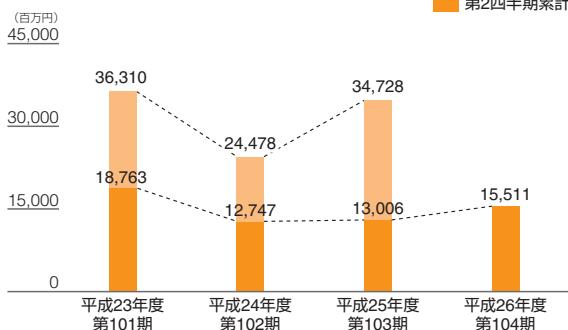
日本国内では、政府の先端設備投資補助金等を活用した設備投資がありました。

コンポジット機械では、航空機部材用自動積層機の追加受注をいただき、第3四半期での売上を予定しております。また、本年3月にパリで開催されました世界最大の炭素繊維機械展示会で当社製品を紹介し、海外航空機関連メーカーから注目を集めました。

### 受注高



### 売上高



## ■ 工作機械関連事業



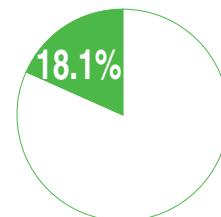
新しい駆動機構を搭載した新型NC円テーブル

受注高 **3,683** 百万円 (前年同期比26.2%増加)

売上高 **3,432** 百万円 (前年同期比10.2%増加)

営業利益 **115** 百万円 (前年同期比74.7%増加)

売上高構成比



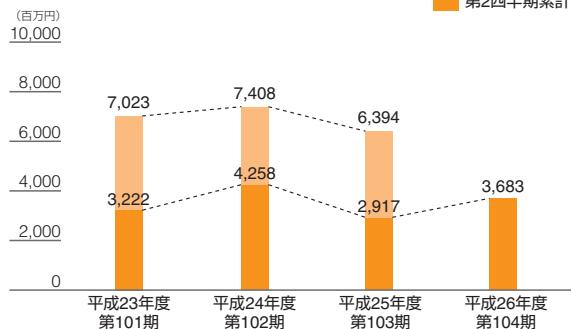
主要納入先であります日本の工作機械業界の受注高が、リーマンショック前の水準に近づく（本年3-5月の受注統計）など、回復の傾向を明確にしていまいりましたことから、当事業部門が担当装置分野におきましても徐々に受注の回復の傾向がはっきりとしてまいりました。しかし、本格的な回復には至らず、当第2四半期におきましては予想を下回る結果となりました。

産業別では、自動車業界では、米国の自動車業界が堅調に推移いたしました。また、日本の自動車業界でも海外への設備投資の機運が高まっております。さらに、ASEAN諸国、インド、中南米の市場でも自動車産業への設備投資案件が浮上してまいりました。こうした市場の動きは今後2年程度をかけて具体化していくものと見ております。

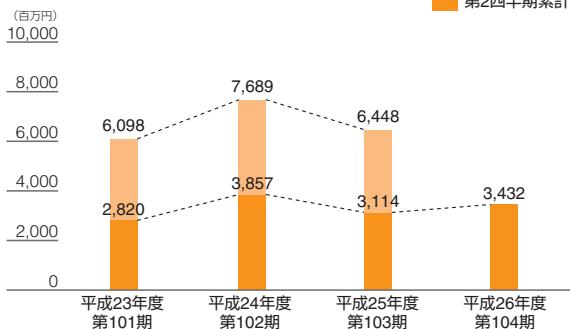
電子機器製造分野では、新型スマートフォンのクリスマス商戦向け生産などに向けた設備投資が急増し、当事業部門におきましても夏から秋にかけて生産に反映される見通しとなっております。航空機業界では米国を中心に、設備投資は堅調に推移いたしました。

当事業部門におきましては、このような市場の回復を見込んで、新型NC円テーブルの開発を進めてまいりました。また昨年度に新たに設置いたしましたインドネシア、タイ、メキシコのサービス・販売拠点に対し、エンジニアへの教育・訓練を行うなど、海外拠点の体制の強化を図りました。

### 受注高



### 売上高



# 連結決算の概要

四半期連結貸借対照表		(単位：百万円)	
科目	前期 平成25年11月30日現在	当第2四半期 平成26年5月31日現在	
<b>資産の部</b>			
流動資産	29,186	25,367	
固定資産	13,249	13,424	
有形固定資産	10,381	10,465	
無形固定資産	54	50	
投資その他の資産	2,813	2,909	
資産合計	42,435	38,792	
<b>負債の部</b>			
流動負債	20,135	17,388	
固定負債	6,293	6,055	
負債合計	26,429	23,444	
<b>純資産の部</b>			
株主資本	14,659	14,093	
その他の包括利益累計額	336	239	
少数株主持分	1,009	1,015	
純資産合計	16,006	15,348	
負債純資産合計	42,435	38,792	

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書		(単位：百万円)	
科目	前第2四半期 (累計) 平成24年12月1日から 平成25年5月31日まで	当第2四半期 (累計) 平成25年12月1日から 平成26年5月31日まで	
売上高	16,120	18,943	
売上原価	14,903	17,186	
売上総利益	1,217	1,757	
販売費及び一般管理費	2,120	2,302	
営業損失 (△)	△ 902	△ 544	
営業外収益	47	36	
営業外費用	104	68	
経常損失 (△)	△ 959	△ 576	
特別利益	0	16	
特別損失	3	1	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△ 962	△ 561	
法人税、住民税及び事業税	12	15	
法人税等調整額	1	△ 19	
法人税等合計	13	△ 4	
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△ 976	△ 557	
少数株主利益又は少数株主損失 (△)	△ 23	8	
四半期純損失 (△)	△ 952	△ 566	

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

科 目	前第2四半期(累計) 平成24年12月 1日から 平成25年 5月31日まで	当第2四半期(累計) 平成25年12月 1日から 平成26年 5月31日まで
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,406	1,957
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,261	△ 493
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,553	△ 370
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	61	△ 28
V. 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,052	1,065
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	10,169	7,686
VII. 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	204	—
VIII. 現金及び現金同等物の四半期末残高	8,320	8,751

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 企業結合の状況

当社の連結対象子会社は、次の5社であります。

共和電機工業株式会社	電機製品、電気機械器具の製造・販売
ツダコマ・ゼネラル・サービス株式会社	警備・営繕業務、損害保険代理業務、梱包業務
株式会社T-Tech Japan	製織用準備機械の販売
津田駒機械設備(上海)有限公司	繊維機械の据付・アフターサービス
津田駒機械製造(常熟)有限公司	ウォータージェットルームの製造・販売

(注) 1. 上記の他、非連結子会社として、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED、ツダコマテクノサポート株式会社、ふぁみーゆツダコマ株式会社があります。

2. 当社100%出資連結子会社であったツダコマ運輸株式会社は、平成26年3月1日付けでツダコマ・ゼネラル・サービス株式会社を存続会社とする吸収合併を行いました。

## 第3回 スマートフォンとNC円テーブル

ツダコマの製品は世界各地のさまざまなモノづくり分野の皆さまにご愛顧いただいております。よりよくツダコマをご理解いただくために、いろいろな切り口でツダコマのマーケットをご紹介します。

### ○ 市場に合わせた戦略機種

ツダコマのRNE型NC円テーブルは、スマートフォンのアルミ筐体の加工に使用されています。RNE型NC円テーブル+サポートスピンドルの構成で、ゆりかご治具にアルミ部材を固定し、タッピングセンタという工作機械で部材の削り出しを行います。

ちょうど今、クリスマス商戦向けの商品の生産が始まろうとしています。ツダコマの工場でもRNE型NC円テーブルの生産が増えています。

RNE型NC円テーブルは、スマートフォンに代表されるEMS (electronics manufacturing service)業界をメインターゲットとして、機能を絞り、低価格ボリュームゾーン向けの戦略機種として開発されました。



### ○ 拡大する電子機器市場に

2013年のスマートフォンの世界出荷台数総数は10億台を超えたといわれています。

目覚ましいスピードで開発が進み、拡大するIT機器の世界。昔、SFアニメで見たような腕時計型の通信機器はすでに実用化されつつありますが、今後どのような形状の製品が登場するか想像もつきません。そのとき、どのようなNC円テーブル技術が必要になるかわかりませんが、加工の精密さの要求が高まるほど、ツダコマのNC円テーブルの出番は増えていくと考えています。

皆さまがご愛用のスマートフォンにも、ツダコマの技術が生きていることを思い出していただければ幸いです。

# 会社概要

## ●会社概要（平成26年5月31日現在）

本社所在地 〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号 資本金 123億1,654万円  
 設立 昭和14年12月30日（創業 明治42年3月） 従業員 969名

## ●役員の方況（平成26年7月21日現在）

代表取締役社長	菱 沼 捷 二	中国生産推進本部 本部長、津田駒機械製造（常熟）有限公司 董事長
代表取締役専務	竹 鼻 達 夫	総務部門担当、総務部長、知財・情報管理部長、輸出管理室長、中国生産推進本部 副本部長、株式会社T-Tech Japan 代表取締役、ふぁみーゆツタコマ株式会社 代表取締役
常務取締役	西 野 順 一	工作機械関連事業担当
取締役	中 村 進	共和電機工業株式会社担当、共和電機工業株式会社 代表取締役
取締役	諏 訪 満	津田駒機械製造（常熟）有限公司 担当
取締役	高 納 伸 宏	コンポジット事業担当
取締役	松 任 宏 幸	繊維機械事業担当、繊維機械販売部長、中国生産推進本部 副本部長、津田駒機械設備（上海）有限公司 担当、津田駒機械設備（上海）有限公司 董事長
常勤監査役	越 馬 進 治 一	
常勤監査役	竹 中 隆 一	
監査役	梶 富次郎	（カジナイロン株式会社 代表取締役会長）
監査役	八 木 孝 男	（株式会社ヤギコーポレーション 相談役）
執行役員	八 松 本 勝 徹	工機販売部長
執行役員	橋 本 一 仁	調達部長
執行役員	坂 井 充 生	コンポジット機械部長
執行役員	大 森 茂 生 司	工機技術部長
執行役員	山 田 茂 生 司	繊維機械技術部長
執行役員	北 野 浩 司	製造部長、製造部製造第1部長

# 株式の方況（平成26年5月31日現在）

## ●株式の方況

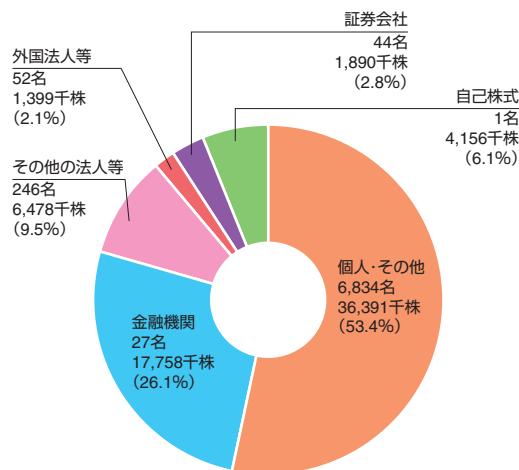
①発行可能株式総数	199,003,000株
②発行済株式の総数	68,075,552株
（内自己株式の数）	（4,156,632株）
③単元株式数	1,000株
④株主数	7,204名

## ●大株主の方況

株 主 名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	8,775
明治安田生命保険相互会社	3,510
株式会社北陸銀行	2,580
株式会社北國銀行	2,320
三井住友海上火災保険株式会社	1,785
東京海上日動火災保険株式会社	1,775
ツタコマ従業員持株会	1,542
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,103
丸紅株式会社	1,023
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	588

（注）当社の保有する自己株式4,156千株は上記表には含んでおりません。

## ●株式の分布方況



（カッコ内は持株比率）



## 株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（第1部）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL 0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。